

この紙芝居は長野市と長野県短期大学の連携事業の一つとして、長野市危機管理防災課の監修の元、幼児教育学科3年生の造形表現IIの履修生が制作しました。

制作 二〇一五年 一月 印刷 信光社

「雷ゴロゴロ鳴るふしきは…」

作・絵

岩崎 いわさき 生宙 みそら

大森 おおもり はる枝 え

南澤 みなみさわ 萌 もえ

①

ある夏の暑い日、あきら、ふゆみ、なつきの三人兄弟は、公園で砂遊びの真っ最中です。

なつきがふつと空を見上げました。

なつき 「お兄ちゃん、お姉ちゃん、向こうのお空に黒くて大きな雲が見えるよ。」

ふゆみ 「あっほんとだ。なんだかおばけみたいにこわいね。」

あきら 「そういえば、風が冷たくなってきたな。」

②

しばらく砂遊びをしていると

ポツ　ポツ

なつき　「あつ、雨だ！」

ポツ　ポツ　ポツ　ポツ　ポツ

雨はあつという間に降り出しました。

風も冷たくさつきより強くなりました。

あきら　「なつき、ふゆみ、あの大きな木の下で雨宿りしよう。」

そう言って三人は木の下に走っていきました。

木の下でしばらく雨宿りをしていると、黒い雲の方から「ゴロゴロゴロー」と雷の音が聞こえて来ました。

すると、大きな木が突然「ねえ君たち、いま雷の音が聞こえてきたよね。雷は高いところが大好きなんだ。だからぼくのそばにいたら危ないぞ。」と教えてくれました。

三人 「えっ、そうなの？」

あきら 「じゃあ僕たちどうすればいいの？」

大きな木 「あつちに赤い屋根の丈夫な建物があるだろう。

あそこなら安心だ。すぐに行きなさい。」

あきら 「教えてくれてありがとう。ふゆみ、なつき、さ

あいこう！」

ふゆみ・なつき 「ハイ！」

三人は急いで赤い屋根の建物の中に駆け込みました。

なつき 「ふうっ。着いた着いた。」

ふゆみ 「ちよつと濡れちゃったね。」

あきら 「でも、これで安心だ。よかった、よかった。」

ピカッ 「ゴロゴロゴロ」

なつき 「あつ雷が近づいてきた。怖いよー。」

ふゆみ 「鳴り止むまでここにいれば大丈夫よ。」

しばらくすると少しずつ雷は遠くに行つたようで「ゴロゴロゴロ」の音は小さくなりました。

雨も少し小降りになつてきたようです。

なつき 「ああ良かった雷遠くに行ったね。」

ふゆみ 「でも、建物が無かったら私たちはどうすればよ
かったの？ねえ、お兄ちゃん？」

あきら 「あっそう言えば僕、聞いたことがあるよ。雷
のときはカメさんみたいになるといいんだっ
て。」

なつき・ふゆみ 「カメさん？」

あきら 「身体を出来るだけ低くしてカメさんみたいになる
んだよ。そうすると雷さんは僕たちのことが見え
ないんだって。でも雷が遠くで聞こえたらすぐに
遊びをやめてお家に帰らなくっちゃね。」

なつき・ふゆみ 「へーそうなんだ。お兄ちゃん教えてくれ
てありがとう。」

三人が話しているうちに、雨は止んできました。

あきら 「いまのうちにお家に帰ろう。」

三人は急いで公園から家に向かいました。

しばらくすると、いつも渡っている橋が見えてきました。橋の下では、茶色に濁った川の水がゴーゴーと音を立てながら流れています。

あきら 「さあ、橋を渡って帰ろう！」

なつき 「でも、川の水がいつもより多くて、なんだか怖いよ。」

ふゆみ 「大丈夫よ。行きましょう！」

三人は橋を渡ろうとしました。

すると、橋が突然、大きな声で

「君たち、近道だからって私を渡るのは危ないぞ。ほら、もうすぐ川があふれ出しそうだ。君たちが川に流されたら大変だ。遠回りでもいいから、あっちの大きな橋を渡るんだ。」と言いました。

三人 「はい！橋さん、ありがとう。」

三人はもう少し先にある頑丈な橋を渡ることになりました。

あきら 「さあ、お母さんが待っている。急いで帰ろう！」

ふゆみ・なつき 「そうしよう!!」

橋を渡っていると、綺麗な虹が出てきました。

なつき 「見て見て！虹だあ！」

ふゆみ 「ほんとだ。綺麗だね。」

あきら 「晴れてきてよかったね。」

三人は綺麗な虹を見ながら、お母さんが待っている家
手をつないで帰りました。

家の前では三人を心配したお母さんが待っていました。

三人 「お母さん！ただいま〜！」

お母さん 「お帰りなさい。みんな大丈夫だった？三人とも雨で濡れちゃったわね。さあ、お家の中に入って身体を拭きましょう。」

そういってお母さんと子どもたちはお家の中に入りました。

お母さん 「雷がすごく鳴ってたけど、怖くなかった？」

あきら 「うん！木が教えてくれて、丈夫な建物の中に入れて、たから大丈夫だったんだ。」

お母さん 「そうだったのね。木が教えてくれたの！」

ふゆみ 「それとね、橋にも教えてもらったのよ。川があふれそうだったから、遠回りだけど丈夫な橋を渡ってきたのよ。」

お母さん 「それはえらかったわね。」

なつき 「雨で体がぬれたから寒いよ。」

お母さん 「それじゃあ、風邪を引かないようにお風呂に入って温まらしましょう。」

三人はぽかぽかのお風呂に入りました。

ちやぶ　ちやぶ

なつき　「あつたかいね。」

あきら　「そうだね。無事にお家に帰れてよかったね。」

ふゆみ　「なんだかほつとしてお腹が空いてきちやつたく。」

お風呂の外からお母さんの声がします。

お母さん　「もう少して夕ご飯よ。早く上がってらっしゃ

い。」

三人　「はい!!」

三人は元気に返事をしました。

お風呂から上がると、お父さんがちようど帰ってききました。

お父さん 「ただいま」

お母さん 「あら、おかえりなさい。」

三人 「お父さん、おかえりなさい！」

あきら 「お父さん、今日ね、公園で遊んでいたら、雷と雨がすごかったんだよ。」

ふゆみ 「川も水がいっぱいね、帰ってくるのに大変だったの。」

なつき 「でも、虹が出てとても綺麗だったよ。」

お父さん 「そうか。いろんなことがあったんだなあ。雷が遠くで聞こえたらすぐにおうちに帰ろうね。」

お母さん 「さあ、ご飯にしましょう。」

三人 「はい！いただきますーす！」